

Q 53 中学校から高校にかけて6年間，学校で週に何時間も英語を勉強してきたはずなのですが，いまだに英語を習得しているとは言い難い状況です。私の努力が足りなかったのかもしれませんが，英語の授業をもっとコミュニケーションを重視したものにすべきではないでしょうか？

A 外国語を聞いたり話したりすることなどに一層慣れ親しみ，外国人と積極的に意思疎通ができるように，コミュニケーション能力の育成を一層重視して，次のような外国語教育の改善を図っています。

#### コミュニケーション能力の育成を目指して

今回の学習指導要領の改訂では，中・高等学校の外国語教育について，外国語を必修科目として位置付けました。特に，中学校においては，英語が国際的に広くコミュニケーション手段として使われている実態を考慮し，英語を原則履修科目としました。

これまでも外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることとしていましたが，今後は一層，実際に話したり聞いたりすることに重点を置き，外国語を使ってあいさつや自己紹介，買い物，旅行など，日常的な会話や簡単な情報交換ができるよう基礎的・実践的コミュニケーション能力の育成を図ることとしています。

なお，小学校でも，新設される「総合的な学習の時間」の中で，国際理解教育の一環として，子どもたちが外国語に触れたり，外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど，小学校段階にふさわしい体験学習を取り入れることにより英会話の学習などもできるようになります。

### 語学指導を行う外国青年の招致事業

生徒たちがネイティブ・スピーカーから直接語学指導を受けることによって、より生きた言語を学ぶことのできる機会を拡大するため、地方公共団体を事業主体として、文部省、外務省及び自治省との協力の下、昭和62年度から語学指導等を行う外国青年を招致しています（JET（Japan Exchange and Teaching）プログラム）。

これにより招致した外国語指導助手（ALT: Assistant Language Teacher）は、主に中・高等学校において、日本人外国語教員と協力してチーム・ティーチング（協同授業）を行うほか、学校のクラブ・部活動や教員との交流など幅広く活動していますが、小学校でも活用することができます。

【外国語指導助手（ALT）の招致人数の推移】

